

2014年度

# 一般入試 B 日程

## 小論文問題用紙

### 注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙は**黒インクのボールペン**または**万年筆**で記入してください。黒インクのボールペンまたは万年筆を忘れた者は監督に申し出てください。(黒鉛筆・シャープペンシルなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は**4ページ**までとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験番号の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

いまから 20 年前に、X は Y 大学に助教授として採用され、以後、教授に昇任した。X の採用時、Y 大学の教員は満 65 歳となった年の学年末で定年退職する、との定年規程があった。X は、採用前に、Y 大学の理事長から、本学の定年は実質なきに等しく、希望すれば 75 歳くらいまでは教授として勤務することができる、との説明を口頭で受けていた。Y 大学は、いまでも 65 歳を超えた教授が多数勤務している。X は、満 65 歳になった年の 9 月、Y 大学の学長から、来年の 3 月末に、定年規程通りに定年退職になるため、来年度の担当授業等はないことを通告された。X は、この通告は無効であり、来年 4 月 1 日以降も Y 大学の教授として研究教育を続け、従来通りの給与が支給されるべきだと考えて、Y 大学に対して要求をしたいと考えている。

この事件に関して以下のように X、A、B、C、D が発言している。これらの一連の発言の中において、どのような論点が含まれ、それについてどのような意見の相違を見いだすことができるか、論じなさい。解答は、所定の解答用紙にしるせ。(800 字以上 1200 字以内)

### X 教授の言い分

定年規程があることは知っている。しかしそれが適用された前例はない。私は、Y 大学に採用される前、大学の理事長から 65 歳定年の規程は気にしないで、気力体力が続く限り思う存分に教育研究に励んでほしいと言われた。

現に、私は、気力体力の衰えもなく、精力的に学生の指導をし、また所属する専門学会でも要職について、第一線で活躍している。今年も単独で専門書を 2 冊出版し、多数の専門家をまとめた共著の編集者になって著書を出版する計画がいまもある。

私は、前理事長に目をかけられて、Y 大学に招聘された経緯がある。その理事長が退任し、現在の A 理事長になってから、大学の経営や運営方針がみだれてきたので、所属する学部の部長職にあった私は、ことあるごとに A 理事長に対して反対の意見を述べてきた。今回の学長からの定年退職の通告は、私に対する A 理事長の嫌がらせにほかならない。

### Y 大学理事長 A の言い分

X 教授が、大学の定年規程に従うことができないと言っていることは大変遺憾なことです。X 教授が採用されるまえに、前理事長がどのようなことを話したのか、知りませんが、正式に本学の教員として採用されるときには、本学の定年規程を含む本学の規程に従う、と書いた誓約書に X 教授自身何の留保もつけずに署名押印しているのですから、それと違う約束があった、などと言われても困ります。

確かに、本学には 65 歳を過ぎても退職せずに、授業や演習を担当している教授の先生はたく

さんいます。しかし、そこには、ほかに専門家が見つからない、余人をもって代え難いなどの特別の事情があって、その都度所属する学部の審議を経た特別の申出があって初めて認められているものです。残念ながら、X教授については、その所属する学部長からは、定年延長について何も提案がありませんでした。

#### 同僚（他学部）のB教授。60歳のコメント

私は、X教授とは所属学部は違いますが、大学の入試関係の仕事でよく一緒に会議をしたのでよく知っています。とてもエネルギーが豊富な先生で、会議でもよく発言されていました。3年前、現在の理事長に交代してから、この大学では入試制度を多様化するという方針が示されて、AO入試、一芸入試、自己推薦入試、指定校推薦の拡大等々が一斉に導入される時、X教授は、入学者の学力低下を憂いて猛反対していたことをよく覚えています。自分が担当する授業のなかでも、大学の執行部に対する露骨な批判を言ってびっくりした、と受講していた私のゼミ生が言っていました。

私もY大学の定年規程では65歳で定年することは知っています。確か最初の年に辞令を受け取る時、そのような文書ももらいました。65歳で定年というのは、日本の大学はだいたいどこも同じようだと思います。私は、65歳から年金が支給されるわけですし、正直言って今風の学生たちを相手に授業をしたり、手厚く面倒を見たりすることには疲れているので、定年するにはちょうどいい頃だと思っています。昔は、教授と言えば、週2、3回、大講義室で講義をすることと少人数のゼミ生を相手に、自分の専門に近い演習をしていけばすんだのに、最近は学生を手取り足取りで細かく指導することを求められて、辟易しています。

#### 同僚のC教授、X教授と同じ学部。50歳のコメント

私は、X教授が65歳で定年退職することを学長から通告されたと聞いてショックを受けました。私は、X教授より5年遅れて本学に採用されていますが、65歳で定年退職したという前例は聞いたことがありません。本人が希望して、かつ体力が続く限り、70歳までは普通に在職する、というのが不文律として存在すると思っていた。

Y大学は、近年は多様な入試方法をとったり、現代的な新しい学部を作ったりして、受験生も増えて、大学の経営はうまくいっていると聞いています。とくに、高給取りの教授を無理に退職させて、人件費を節約する必要はうちの大学にはないはず。

ベテランのX教授は本学部の看板教授だと思っていたので、驚くばかりです。うわさでは、X教授は、機会あるごとに理事長のやり方に異を唱えて、両者は相当険悪な関係にあったとも

聞きました。そのことが今回のX教授の規程通りの定年退職の通告に関係しているとするならば、自由をモットーとするY大学の雰囲気悪化する憂慮すべき事態です。こんな大学は嫌だ、  
とって優秀な教授たちが65歳前に続々と他大学に転出するようなことになれば、大学にとっても学生にとっても大きな痛手です。

#### Y大学の3年生D。X教授のゼミに参加していた。20歳のコメント

私の大学では、3年と4年で同じ先生のゼミをとることが多いので、私も当然X教授のゼミに来年も登録しようと思っていました。ところが、ゼミ募集の掲示にはX教授の名前がありません。事務室で聞くと、X教授は、大学の定年により今年度いっぱい退職すると説明されました。X教授は、いつもはつらつと講義やゼミをしているので、定年を迎えるような年齢であったとは全く気づきませんでした。X教授よりも、老けて見えたり、明らかに高齢の先生もたくさんいるので、なおさらです。しかし聞くところによれば、X教授は、今年もう65歳になっているとのことでした。私の祖父とそんなに変わらない年なので、びっくりしました。そして、その年ならば、勤務先を定年退職することも仕方ないのかもしれないかもしれません。父が勤務する会社では、55歳くらいになるとリストラの対象になり、別の子会社に異動させられたり、管理職を外されたりして、給料が大幅に下がるようになった、と聞きました。大学の先生も、給料をもらって生活しているサラリーマンである限り、定年退職は避けられませんし、それでも65歳の定年は恵まれています。私は、来年別のゼミを探さなければなりません、まあどうしてもX教授でなければ、というほどのこだわりはないので、特に困ったことはありません。周りのゼミの仲間もだいたい同じようなことを言っていました。